魚まち通信

発行責任者　魚まち歩観会
会長　植田　芳男

■魚まち通信目次・・・・・

・トピック
・あの人この人
・魚まち紹介
　【恵比寿神社】
・郷土資料館
・コラム
　『テレビの思い出』
・視察研修旅行
・カルタ「さ」
・魚まちの名所
・昔ながらの漁法・漁具
　タイの一本釣り
・味自慢
・歩観会の活動報告

さようなら嵐屋旅館

またひとつ魚まちの名所が・・・

旅館業を営んでいた西山滋さんから町に無償で寄贈された嵐屋旅館の解体工事が始まりました。魚市場に近く燈籠祭や港市会場のすぐ側で魚まち歩きの出発点なので、もてなしの拠点、町民の憩いの場所などその利用については座談会や見学会なども行い話し合われて来ました。町が調査をした結果、耐震補強工事が困難と診断、昨年９月議会で解体することが決まり、このほど工事が始まりました。

町民からは、長島から歴史ある建物が消えることを惜しむ声が多く聞かれています。解体後、当面は多目的広場となる予定ですが、今後その土地の有効活用について話し合いの場を設けてほしいものです。

陶板で魚まち紹介

第十回恵比寿（えびす）神社（陶板15番・横下町）

▼♪カッカ・カッカラッカ・ドド～ン・ドンドン！今年も長島浦に淡路島から人形芝居（文楽）の一座がやってきた。正月と十月、恵比寿神社の祭りに合わせ、笛太鼓を吹き鳴らし、旗のぼりを揚げて港に入って来るのだ。▼恵比寿は七福神のひとつ。商売繁盛の神で、長島では古来、漁方と浜あきんどの信仰が厚い。社殿は、享保元年（一七一六）横下町の向かいの浜側に建てられた、と古絵図にある。▼さて、人形芝居の興行。倹約令の下では御上のおとがめがあるかも知れぬ。だが息苦しいご時世だからこそ余興も欲しい。人々は、「大漁祈願」を名目に藩代官所に願いを出し、興行許可をもらったという。▼西田半白氏は『新長嶋風土記』において、「薄暗い燈影に動く人形の妖美さに陶酔した」と書いておいでだ。また同時に、あげ寿司・ういろう・白玉・でんがくなどの夜店が多数出て、参詣の老若男女で賑わった様子も述べられている。▼明治末期の神社合祀政策により、恵比寿神社は中ノ島の鏡神社境内に移され、今も変わらぬ漁民の信仰を集めている。

参考文献：西田半白氏著『新長嶋風土記』より

豊浜漁協「魚ひろば」～常滑「やきもの散歩道」へ

今回、魚まち歩観会の視察研修に初めて参加させて頂いた。天気に恵まれ、少し歩くと汗ばむ程の陽気の中、愛知県南知多と美浜、常滑を視察し、長島の町並みと照らし合わせて、自分たちの町には、何が必要なのか、考えながら歩いてきました。

南知多では、「豊浜魚ひろば」を研修しました。店内は、地元で捕れた魚貝類が新鮮な状態で並べられ、見てるだけでもワクワクし、活気のある店主の掛け声も、魚屋の雰囲気を出していた。店内を出て、近くの市場を散策。堤防には、釣りをしている人達がいた。長島と変わらない風景。でも、海は、南知多の方が綺麗だったのが、少し悔しかった。市場の一画に、人の行列を発見。近づいてみると、定食屋だった。お世辞でも、綺麗とは言えない店の前には、あじのある手書きのメニューボード。残念ながら、開店前だったので、入る事は出来なかった。長島にも、こんな定食屋があったらいいなあ。

美浜では、定番の「えびせんべいの里」。観光バスから、一般客まで、店内はいっぱいだった。工場見学の予定が、休日で機械は止まっていたが、せんべいのいい匂いがした。

常滑は、地元のボランティアの語り部の方の案内で、「やきもの散歩道」を散策。坂道だらけで、息を切らしながら語り部さんについていった。歴史のある町並みは、興味深く、入りたい店も多く、もう一度、個人的にゆっくり来たいと思わせる魅力がいっぱいで、私達のこれからの活動の課題になった。（東　佐知）

あの人この人

故東真澄さん写真展

一月の十日、十一日の二日間、駅前のマンドロ会館で昨年末に亡くなられた東真澄さんの写真展が開催されました。

東さんは、上本町の歯医者さん二代目で、西小学校の校医を長い間していたことから、西小学校の卒業生には、とても関わりの深い方です。

写真は、スイスやオーストリア、ベルギー、中国など東さんが外国を旅した時の美しい風景を始め、昭和二十年代から撮りためたモノクロ写真合わせて七十点ほどが展示されました。

生前から写真展開催を望み、写真を引き伸ばすなど準備を進めていたのをみつけた娘の福岡泉さんが、お父さんの意志を継ぎ、みちはた写真館の道畑祐介さんに額装をお願いし、友人や家族の協力を得て、開催されたものです。

昭和二十年代～三十年代の燈籠祭のもよう、伊勢湾台風直後の町内の被害の様子、江ノ浦周辺の暮らしや風景、ブリで埋めつくされた魚市場、いかだ流しやシジミ採り、赤羽川河口など水辺の風景、記念碑山や荷坂から撮った当時の町並みなど貴重な写真がいっぱい。中でも、東さん本人が漁船に乗り込み目の前でシビ網漁を撮影した数点は、乗組員が力をふりしぼって網を引く様子や網の中に飛び込みシビの引き揚げを手伝うシーンなど海の男たちが命がけで働く姿が映し出されていて、東さんが郷土を愛していた気持ちが伝わってきました。

二日間で四百人以上が会場に足を運び、東真澄さんを偲びながら、当時の暮らしを懐かしんだり写真の中に知人や自分の姿を見つけ、思い出話に花を咲かせる人たちの輪があちこちに出来ました。

魚まち郷土資料館

昔の浮標

浮きダマ。中のビンが割れないように丈夫な縄ですきまなく編み込まれている。

参加者募集

本年度も魚まち歩観会では、町づくりを応援してくださる方を募集しています。興味のある方は
紀北町役場産業振興課
商工・観光係
0597-32-3905
※裏面にこれまでの活動状況や会の紹介をしています。

『テレビの想い出』

向井　清隆

昭和30年代になると、長島（現在の紀伊長島）でも旦那衆（だんなし）の家では、自宅でテレビを楽しむ家も出てきましたが、一般家庭ではテレビはまだまだ高嶺の花でした。当時テレビ一台買うのに、一般サラリーマンの一カ月の給料の数十倍もしましたから無理もない話です。◆私の家（松本）の近くに有料でテレビを見せてくれる店がありました。10円持っていくと教室の半分位の広さの部屋で一時間だけテレビを見ることができました。私が見た時はニュース番組をやっていました。四日市高校が夏の全国高校野球大会で優勝し、初めて三重県に優勝旗を持ってきたことをその時初めて知りました。昭和30年（一九五五年）夏のことです。一時間後、部屋が明るくなると、気持ち良さそうに眠っている幼児がお店の人に起こされていたのを覚えています。一年もするとその店は閉じてしまいましたから、徐々にではありますがテレビを持つ家庭が増えていたのだと思います。◆夜はプロレス中継を見るために、テレビを持っている家に押しかけました。「テレビ見せて～」とお願いするとたいていの家ではこころよく見せてくれました。外国人レスラーと比べると体格が数段劣る力道山が、序盤は劣勢に立たされても必殺技の空手チョップが飛び出すと、たちまちにして形勢は逆転しフォール勝ちしました。よその家でテレビを見せてもらっていることを忘れて大声で応援したものです。帰り道は随分遅くなってしまいましたが、今と違って新町通りは真昼のように明るく、人通りもたくさんありましたから寂しくはありませんでした。◆昭和34年に皇太子殿下、美智子妃殿下の御結婚パレードの中継を見るために、テレビを購入する家庭が随分増えましたが、私の家にテレビがやってきたのはそれから数年も先のことでした。◆テレビに熱中するあまり、こども達が外で遊ばなくなったり家庭で勉強しなくなったりとか新たな問題も出てきました。